

様式1 令和3年度 山梨県立甲府東高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	1自ら考え、自ら判断し、自らの考えをもって主体的に行動しようとする生徒 2他者を尊重し思いやり、他者のために動こうとする生徒の育成
-----------	---

山梨県立甲府東高等学校校長 佐野 修

本年度の重点目標	深い学び、対話的な学び、主体的な学びへ、授業改善を図るとともに教科内での指導方法等情報交換の促進と個別指導を充実させ、確かな学力の育成に努める
	総合的な探究の時間・課題研究・探求サプリをはじめとする探究活動・体験活動を充実させ、生徒の自己肯定感の醸成に努める
	学校教育活動のそれぞれの場面において、育てる力を意識し、勉強も部活動も学校行事も、すべてに取り組みめる環境づくりに努める

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月16日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	深い学び、対話的な学び、主体的な学びへ、授業改善を図るとともに教科内での指導方法等情報交換の促進と個別指導を充実させ、確かな学力の育成に努める	管理職授業参観や相互授業参観を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICT活用を含めた授業改善の促進を図る 自ら考え深め、考察する力の育成のために、主体的活動や対話的活動ができる場を設定する 教科内で指導方法やICT活用等について情報共有を行い、デジタルデータ等の共有を図り、個々の教員の負担軽減を図る	授業参観票 教科会議での振り返り 授業アンケート レポート・プレゼンの自己および他者評価 教員アンケート 授業アンケート	・センター研究協力校として、国語、地歴・公民、数学、英語の4教科については、センター指導主事に教科会議に参加していただき「深い学び」について指導助言をいただくとともに、校内研修会において全職員に対して指導助言をいただき、授業改善を図った。 ・分散登校期間には、ハイブリッド授業に挑戦し、新たな学習スタイルの構築を図った。	B	・各教科の教科会議において、授業改善に関する情報交換の機会が増えた。次年度からは研究協力校ではなくなるが、教科内情報共有、他教科との連携を図ることを継続していきたい。また、各教科で観点別評価及び一人1台端末の利活用についての研究を深める必要がある。
2	総合的な探究の時間・課題研究・探求サプリをはじめとする探究活動・体験活動を充実させ、生徒の自己肯定感の醸成に努める	総合的な探究の時間やLHRを活用し、自分の考え整理し、グループで意見を交換する等の協働活動をおとしてコミュニケーション能力や協調性の醸成を図る キャリア教育推進のための学校行事(ミニ大学・職業人講和等)の継続・発展を図る 生徒の自主的な探究活動をサポートする「課題研究」や「探求サプリ」の時間の充実を図り、3年間を見据えた「総合的な探究の時間」を構築する 各種行事の運営に当たっては、学年や分掌等の協働体制を構築し、担任等の負担の軽減を図る	レポート評価 教員・生徒アンケート 生徒アンケート 活動実践報告 計画・実施について検証 教員・生徒アンケート 学校行事アンケート	・夏季休業明け及び冬季休業明けに新型コロナウイルスの感染が拡大したため、各種行事に制限が多くなった。そのため、探求サプリなどは実施することができなかったが、ミニ大学や職業探究などの行事は実施することができ、キャリア教育の推進を図ることができた。 ・総合的な探究の時間では、各学年でグループ活動を中心に計画したため、コロナ禍であったが、年度末に発表する機会を作ることができた。また、2年生は予定通り沖繩県への修学旅行を実施することができ、探究活動を深めることができた。	B	・コロナ禍ではあったが、山梨県中小企業家同友会等の協力を得ることができ、職業探究やインターシップを行うことができ、地域交流事業としての成果も得られた。 ・来年度は、新科目「理数基礎探究」も始まるため、センスオブワンダーとの連携を図りながら、理数コースの探究活動を充実させていく必要がある。 ・コロナ禍における「探求サプリ」の実施方法も検討する必要がある。
3	学校教育活動のそれぞれの場面において、育てる力を意識し、勉強も部活動も学校行事も、すべてに取り組みめる環境づくりに努める	生徒が主体的に計画する行事の活性化を図ることにより、帰属意識の醸成と互いに支えあう集団を育成する 部活動や学校行事等に積極的に参加させ、充実感や達成感を体感させることにより、豊かな人間性の育成を図る 交通マナーの向上や挨拶の励行等について継続的に指導することにより、社会性の向上を図る 部活動の運営や指導に当たっては、正副顧問や担当者間の連携に努める	学校行事アンケート 生徒アンケート 教員・生徒アンケート 教員アンケート	・昨年度実施することができなかった学園祭を今年度は実施することができた。その企画段階からコロナ禍でも実施できる学園祭をテーマに生徒が主体的に活動している姿が見られた。 ・部活動においても、感染症予防対策を徹底したことによって、部活動内での感染症の発症もなく、制限のある中でも充実した部活動ができたのではないかと感じている。また、複数顧問の配置により、顧問の働き方改革への意識づけを行うことができた。	B	・体育館の改修工事とコロナ禍が重なり、対面での一斉指導は難しいものがあつたが、ICTを効果的に活用し、オンラインでの一斉指導を行うことができた。 ・新しい生活様式の学校生活を送るうえで課題や行事の運営方法などを生徒会を中心に、生徒自らが考え、提案できるような機会を設けていきたい。
4						
5						
6						

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月17日)	
評価	意見・要望等
4	・授業において、グループワークやICTの活用を積極的に進めており、生徒も主体的に活動していてもよかつたと思う。また、生徒が発表し、それに対してグループで話し合いを行い、その内容をパワーポイントを利用して発表していたことはとても驚いた。 ・分散登校期間中もハイブリッド授業に取り組むなど、状況に応じた対応に挑戦していることはとても良い。今後も生徒にとって有意義なものを積極的に取り入れるようチャレンジしてほしい。
3	・コロナ禍における探究活動は難しい面もあると思うが、その中でできることを見つけ、実践していくことは生徒にとってとても大切なことだと思ふ。できるだけ中止にせず、オンラインを活用したり、規模を縮小するなどして体験活動などを行ってほしい。 ・修学旅行が実施できたことはとても良かったと思う。生徒が自ら調べたことを現地でも確認し、話を聞き、さらに深めることができるのもよい探究活動が修学旅行だと思ふ。来年度も各種行事を実施できるよう、様々な方法を模索してほしい。
3	・校舎の老朽化が目立ってきている。このような状況で生徒たちが自らトイレや教室の老朽化の問題に対して、改善策を考え、アイデアを出し合い活動することができれば、自分たちの学校をよくするためのボランティア活動やSDGsの考えにもつながるのではないかと思ふ。このような視点から生徒へアプローチすることもできるのではないかと。 ・コロナ禍ではあるが、社会に関することや人の生き方について話を聴く機会を作してほしい。自己実現に向けて、人の話を聴く機会はとても役に立つ。先輩たちも様々な職業に就いているので、卒業生の話を聴く機会を作れば、生徒は身近に感じられて多くのことを学ぶ機会になるのではないかと思ふ。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。